

令和 8 年 8 月 19 日

大山町議会議長 吉原 美智恵 様

大山町議会議員 島田一恵

令和8年度大山町議会議員研修報告書

1	研 修 名	令和8年度 鳥取県町村議会女性議員研修会
2	日 時	令和 8 年 7 月 29 日（水） 午前 11 時～午後 2 時 30 分
3	参 加 者	
4	研 修 地	湯梨浜町「水明荘」
5	研修内容	「鳥取県の不登校の現状と不登校支援」 「フリースクールについて」 「議会が行うべき決算審議について～成果起点から行う実践的な審査／審議～」
6	研修結果 又は概要 （意見・ 感想）	<p>「鳥取県の不登校の現状と、不登校支援」 県教育相談センター 西村 学氏、山口 功氏</p> <p>鳥取県における不登校の現状と、県・学校・関係機関が連携して取り組んでいる支援について学んだ。</p> <p>不登校とは年間 30 日以上欠席した児童生徒を指し、全国・鳥取県ともに年々増加している。令和 6 年度では、全国の不登校児童生徒数は約 42 万 2 千人となり、鳥取県でも 2044 人と、令和元年度から約 2 倍に増加している。</p> <p>特に小学校・中学校ともに増加傾向が続いており、不登校は特別な問題ではなく、どの地域・学校でも起こり得る身近な課題であることを認識した。</p> <p>県では、</p> <ul style="list-style-type: none">* スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置* 学校生活適応支援員の配置* 校内サポート教室の設置支援* 自宅学習支援* 教育相談・専門医による相談体制* 教育支援センターやフリースクールとの連携 <p>など、多様な支援体制を整え、一人ひとりに応じた支援を行っていることを学んだ。</p> <p>所感</p> <p>印象に残ったのは、「学校へ戻すこと」だけを目標とするのではなく、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、社会とのつながりを切らさない支援を大切にしている点である。</p> <p>また、不登校の背景には家庭環境や人間関係、学習面など様々な要因があるため、学校だけではなく、家庭・地域・行政・専門機関が連携して支援することの重要性を改めて感じた。</p> <p>本町においても、子供たちが安心して学び、自分らしく成長できる環境づくりのため、関係機関との連携をさらに深め、多様な学びの場や相談体制の充実に取り組んでいくことが重要である。</p> <p>誰ひとり取り残さない地域づくりを進めるためにも、学校だけに任せるのではなく、地域全体で子供たちを見守り支える体制づくりの必要性を強く感じた。</p>

「なぜ決算審査・審議を行うのか」

一般社団法人地方公会計団体政策支援機構 理事 渡辺大樹氏

本研修では、決算審査は単に「お金が適正に使われたか」を確認するだけではなく、事業によって住民や地域にどのような成果が生まれたのかを検証することが重要であることを学んだ。

特に印象に残ったのは、

「何をやったかではなく、何が変わったのか」

という考え方である。

予算・人員・時間を投入して事業を実施した結果、

＊住民サービスは向上したのか

＊地域課題は解決に向かったのか

＊将来のまちづくりにつながったのか

という「成果」を評価することが、議会の役割であると学んだ。

また、審査にあたっては、

＊現在の結果・成果を確認すること

＊なぜその結果になったのか原因を分析すること

＊本来の目的や目標に沿っているか確認すること

＊総合計画との整合性を確認すること

＊財政構造を理解した上で議論すること

が重要であることを学んだ。

さらに、決算審査は審査して終わりではなく、その結果を次年度の予算や政策提案へ反映させることが議会の役割であり、議員間討議を通じて共通認識を持ち、より良い政策形成につなげることの重要性について理解を深めた。

所感

これまで決算審査では事業内容や執行状況に目が向きがちであったが、今回の研修を通じて、住民にどのような成果がもたらされたかという視点で検証することが重要であると感じた。

今後は本町の総合計画や財政状況を理解し、事業の成果を住民目線で検証し地域課題の解決に生かしていきたい。